

区分別科目	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連		時間数 （法定）	9（8）
特定行為名	（A）末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入			
担当指導者	久保田良浩（医師）我如古理規（医師）三好梨恵（看護師）河村 佑太（看護師：外部評価者）			
学ぶべき事項	（共通）末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖 2. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理 3. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの目的 5. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌 6. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策等） 		
	（A）末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	<ol style="list-style-type: none"> 1. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌 2. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入方法と手技 		
研修概要	（共通）末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理の基礎知識	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの必要性やその特徴を理解し、安全に末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入を実践できる看護師を養成する。		
	（A）末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	医師の指示の下、手順書により、身体所見（末梢血管の状態に基づく末梢静脈点滴実施の困難さ、食事摂取量等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、超音波において穿刺静脈を選択し、経皮的に肘静脈又は、上腕静脈を穿刺し、末梢留置型中心静脈注射用カテーテル（PICC）を挿入する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、末梢留置型中心静脈注射用カテーテルができるようになる。 2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。 			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	OSCE：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	実習：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	試験：eラーニング上で筆記試験を実施			
研修内訳	講義（8時間）	視聴時間 45分＋講義確認テスト 15分		
	OSCE	OSCE（1時間）は、講義室で行う		
	実習	実習は指導者のもと、宇治徳洲会病院で行い、最低5症例経験する ※各行為の実習観察評価0.25時間は5症例目の実習時間に含める。		
	試験（1時間）	科目修了試験（筆記試験） 1時間 （共通）末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理の基礎知識 0.5時間 （A）末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 0.5時間		

授業計画						
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項		担当指導者
栄養に係るカテーテル管理 (末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連	第1回	講義	放送	(共通) 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理の基礎知識	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖、末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的 (1)	
	第2回				末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖、末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的 (2)	
	第3回				末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌、リスク (有害事象とその対策等)	
	第4回			(A) 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌	
	第5回				末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク (有害事象とその対策等)	
	第6回				末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入方法と手技(1)	
	第7回				末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入方法と手技(2)	
	第8回				末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入方法と手技(3)	
		実習	面接	OSCE 前実習 (シミュレーターを用いた実習)		
		OSCE	面接	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入		
	実習	面接	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 (見学)			
			末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入			
第9回	試験	試験	科目修了試験 (筆記試験)			

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	<p>* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。</p> <p>* 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。</p> <p>* 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う (祝祭日を除く)。</p> <p>* 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。</p> <p>* OSCE は講義室で行い、Mini-CEX により評価され、基準に達していない場合は実習を行うことができない。</p> <p>* 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。</p> <p>* 科目修了試験 (筆記試験) は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。</p> <p>* 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時的講義を行う。講義の場所は、講義室とする。</p>